

PHOTO 倉科満寿夫

生研 ニュース

IIS NEWS
No.124
2010.6

●戦略情報融合
国際研究センター 教授
喜連川 優

いまや生研の、東京大学の、いや日本を代表するデータベース界の重鎮、本所戦略情報融合国際研究センター教授、喜連川優先生に表紙を飾っていただきました。ここは所内のとある秘密基地…のような、宇宙戦艦のようなサーバーの要塞の前で、文部科学官として役所との往復で激しくお忙しい中、にこやかに写っていただきました。ど素人にはそういう風にしか映らないのがもったいないくらいの最新最高速機種だそうです。「生研の大きな性格が私を支えてくれた」など、エピソードにときおり柔らかな

関西弁を交えてお話し下さり、先生の大きなお人柄の原点を感じました。「研究に関する成功の定義は難しい」「経験が研究者を作り上げる」「研究をすることは社会に対して価値を返すこと」「多大な労力を払う“誰か”が背後にいることを認識せよ」など、珠玉の言葉は先生ご自身の実空間情報そのものでした。このデータベースを締める言葉は「研究以前に人生の最適化がとても大切です」。これこそ、喜連川先生の最先端研究開発の原点かも知れません。

(小倉 賢)

IIS
TODAY

平成22年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 科学技術賞（開発部門）受賞

さる4月13日（火）に、本所都市基盤安全工学国際研究センター長の目黒公郎教授が、平成22年度科学技術分野文部科学大臣表彰（開発部門）を受賞しました。目黒教授の指導で博士（工学）を得た上半文昭氏（鉄道総合技術研究所主任研究員、元本所民間等共同研究員）との共同受賞で、対象は「構造物検査用遠隔非接触振動計測システムの開発」です。

同システムは、レーザドップラ速度計の筐体に高精度な振動計と角度計を内蔵して計測結果を補正するアルゴリズム、大型構造物の現地測定に特化した機器特性と装置構成、ソフトウェアの研究によって実現したもので、「従来の検査法に代わる安全、安価、迅速で高精度な定量的構造物検査手法として社会基盤の維持管理体系の合理化に寄与し

ている」と評価されました。社会基盤施設の老朽化の進展、地震危険度の高ま

り、少子高齢化や保守コスト削減による熟練検査技術者確保の困難などの環境の中、平時の維持管理の合理化と簡略化の促進、事故や災害時の迅速な検査による早期復旧などに大いに貢献すると期待されます。

（都市基盤安全工学国際研究センター

沢田 治雄）



4月13日に新宿区内のホテルで表彰式が行われました
（左：上半博士、右：目黒教授）

平成22年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 若手科学者賞 受賞

今年度の若手科学者賞をいただくことができ、大変光栄に存じます。受賞理由の業績名は「複合材の健全性監視のための組込型超音波診断システムの研究」です。本研究では、民間旅客機等の構造に使用されつつある繊維強化複合材料を対象とし、その内部に発生する特有な損傷を簡便かつ早期に検出することを目的として、軽量・柔軟なデバイスから構成される、複合材に一体化可能な超音波伝播システムを構築してきました。そして広帯域な超音波を伝播させ、その周波数分散性が板厚に依存する現象を活用することで、材料内部の剥離損傷を検出する新たな診断手法を構築することに成功しました。本賞は、研究

室の皆さんの着実な努力の積み重ねと、様々な先生方のご助言とご推薦のおかげで

ことができ、心より感謝致しております。そして本受賞を励みとして、世の中に貢献できる研究成果をあげられるよう、これまで以上に意欲的に取り組む所存です。

（機械・生体系部門 岡部 洋二）



「平成21年度 社会人のためのITS専門講座」開催される

平成21年度「社会人のためのITS専門講座」が、本所先進モビリティ研究センター（ITSセンター）と本学大学院新領域創成科学研究科との共催で、3月8日（月）に本学柏キャンパス、9日（火）に駒場Ⅱリサーチキャンパスで開催されました。

この「社会人のためのITS専門講座」は、事業所内での教育がなかなか難しいというITS関連の企業からの要望にお応えして、ITS分野の技術開発、事業化、政策立案、地域展開に必要な人材の育成を目的に、平成16年度から開催して参りました。ITSセンターのメンバーを中心に、研究成果の発表と研究室見学、研究者とのディスカッション等により、ITSセンターの日頃の活動をご理解いただくとともに、研究成果の社会還元の一環として位置づけております。

今年度は、平成21年6月に、柏市が内閣府社会還元加速プロジェクトの「ITS実証実験モデル都市」に選定されたことを受けて、初めて、柏キャンパスで開催しました。野城智也所長の開講挨拶のあと、「柏ITS推進協議会」に全面的に協力させていただいているITSセンターは「柏の葉ITS実証実験の技術紹介」を行いました。新領域創成科学研究科大和裕幸教授、鬼頭秀一教授、空間情報科学研究センター関本義秀講師、横浜国立大学藤本博志准教授による研究成果の報告と研究室見学が行われ、71人が参加されました。翌9日は、駒場Ⅱリサーチキャンパスで、野城智也所長の開講挨拶のあと、最先端のITSの研究開発について、ITSセンターの専任メンバーである桑原雅夫教授（センター長、現東北大学教授、本所兼任教

授）、池内克史教授、橋本秀紀准教授、鈴木高宏准教授（現長崎県産業労働部政策監 本所客員准教授）、牧野浩志准教授、横山栄助教による講義がおこなわれました。また（株）アスカラボ角田哲也代表取締役、（株）アイ・トランスポート・ラボ堀口良太代表取締役による大学発ベンチャー企業の紹介がありました。その後、研究室見学が行われ、101人が参加されました。夜遅くまで、研究室での熱心な質疑、また、研究についてヒントにつながる厳しいご指摘も多数いただきました。大学側にとっても、非常に有意義な研究室見学となりました。

なお、平成22年4月1日よりセンター長が須田義大教授に交代いたしました。

（先進モビリティ研究センター
田中 敏久



野城所長による開講挨拶



牧野浩志准教授



(株)アスカラボ代表取締役
角田哲也



(株)アイ・トランスポート・ラボ代表取締役
堀口良太



横山栄助教



須田義大現センター長の開講挨拶



IIS PhD Student Liveが開催される

さる3月1日(月)に本所コンベンションホールにて博士課程学生の交流イベントIIS PhD Student Liveが開催されました。これは本所の研究室に所属するさまざまな研究科・専攻の大学院生間の相互交流、相互啓発を狙いとしたイベントです。専攻や専門分野間の垣根が低く、気楽に異分野の研究者間の相互交流が行える本所の雰囲気を、教職員レベルから大学院生レベルまで広げよう、という趣旨で開かれました。内容は、1分間のショートプレゼンテーションと2時間のポスターセッションで、各自が自分の研究内容を紹介する、という形で行われました。今年は発表者をD2の学生全員とし、68名の在籍者中やむを得ぬ事情で出席できない人を除き、44件の発表がありました。さすがに博士課程の学生だけあって、発表は手慣れたもので、またポスターセッションでの議論もなかなかの盛り上がりを見せていました。発表者以外の聴講者の数はそれほど多くはありませんでしたが、それがか

えって嬉しい、ポスターセッションでは落ち着いた雰囲気の中で、じっくりと議論ができていたようです。

発表だけでなく会の運営も博士課程の学生に一任し、下記の5名の運営委員の下、事務局研究総務チームの強力なサポートを得て、懇親会も含めてすべて滞りなく進行しました。また、一定水準以上の研究レベルが達成されていることを前提に、異分野の研究者に自分の研究の面白さをいかに魅力的にアピールできたか、という観点で、Best Presentation Awardを選定しました(結果は下記を参照)。これも博士審査が終わって間もないD3の院生に審査をお願いしました。

このイベントがきっかけとなり、今後の研究に新たな展開を図っていただければ幸いです。

運営委員

基礎系部門 福谷研 岩田晋弥
(委員長)

機械・生体系部門 大島研 柴崎健一

情報・エレクトロニクス系部門

高橋(琢)研 勝井秀一

物質・環境系部門 藤岡研 上野耕平

人間・社会系部門 村松研 鮎川 慧

Best Presentation Award (副賞 iPod touch)

基礎系部門 中埜研

桑原里紗(工・建築)

「地震後の残留変位に着目した建物の修復性能評価に関する研究」

基礎系部門 福谷研

岩田晋弥(工・物工)

「カーボンナノチューブへの分子の物理吸着」

情報・エレクトロニクス系部門

合原研 澤井賢一(情報・数理情報)

「時間間隔認知の数理モデル」

マイクロナノメカトロニクス国際研究センター 藤田(博)研

佐藤隆昭(工・電気)

「MEMS銀探針のナノせん断破壊に伴う界面変形の実時間TEM観測」

(教育・学務委員長 志村 努)



(左) 佐藤隆昭 (右) 野城所長



(左) 岩田晋弥 (中) 桑原里紗 (右) 澤井賢一

東京都市大学と学術連携覚書を締結



3月26日（金）、セルリアンタワー東急ホテル（渋谷区）において、東京都市大学（平成21年4月に武蔵工業大学より改称）と本所との学術連携に関する

覚書の調印式及び合同記者会見が行われました。東京都市大学からは中村英夫学長、白木靖寛副学長、湯本雅恵工学研究科長、片田敏行工学部長、本所

からは野城所長、光田副所長、中埜副所長が出席しました。

今回の覚書は、基幹技術者の育成に長年の実績のある東京都市大学と、最先端研究、産学連携に実績をもつ本所が、お互いの特質を活かしながら若手人材の育成や研究協力をしていくことを目的としています。

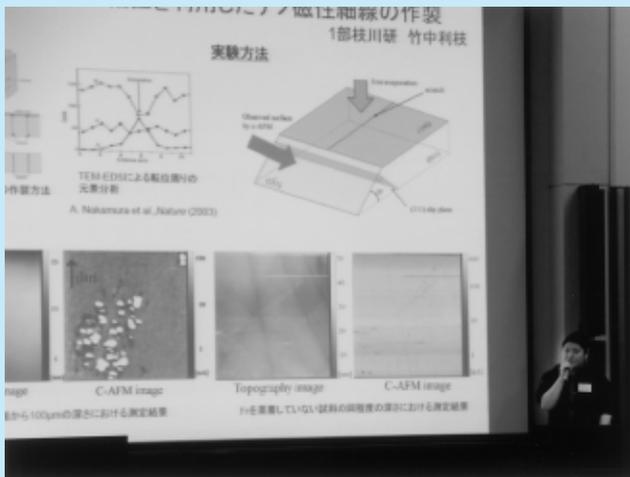
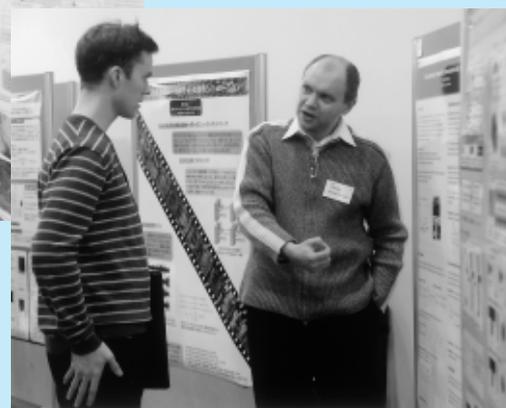
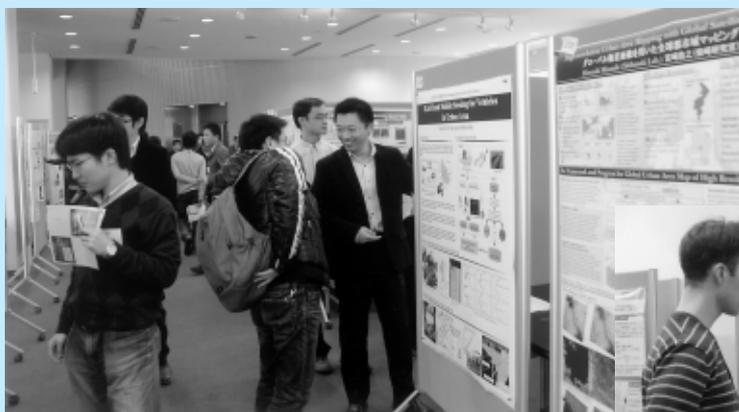
調印式終了後、野城所長からは、この覚書を締結するに至った経緯を、また、中村学長からは、この覚書が永く続くことへの期待が述べられました。合同記者会見には、新聞社をはじめ10社を上回る報道機関が参加しました。

（元総務課長 大西 淳彦）



3月1日

IIS PhD Student Live



文部科学省次世代IT基盤構築のための研究開発 「イノベーション基盤シミュレーションソフトウェアの研究開発」 第2回統合ワークショップを開催

「イノベーション基盤シミュレーションソフトウェアの研究開発」プロジェクト（平成20年度～24年度予定）では、開始後2年間の研究成果を実装したソフトウェアβバージョンの一斉公開をこの6月に予定している。それに先立って3月2日（火）、10日（水）の両日、ソフトウェア紹介を目的にした「第2回統合ワークショップ」を開催した。

まず3月2日（火）は、量子バイオ・ナノデバイス分野を統合して開催し、ProteinDF、BioStation、PHASE-SYSTEMの各ソフトウェアの内容紹介に加えて、スーパーコンピューティング技術産業応用協議会バイオワーキンググループ参加企業より実際の活用事例の紹介があったため参加者からの大きな注目を集め、予定時間を大きく超過して活発な討論が行われた。

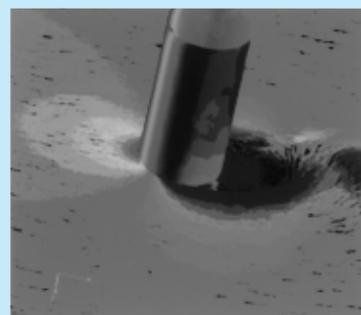
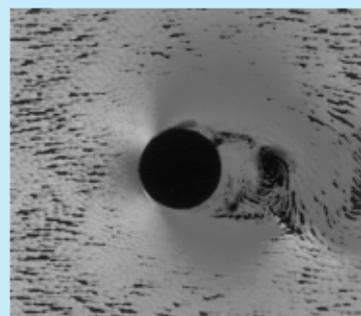
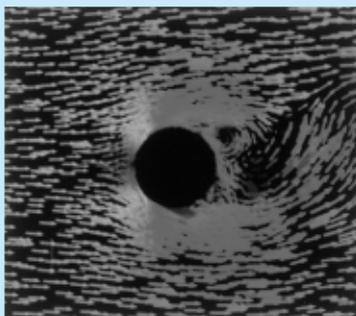
一方3月10日（水）は、ものづくり分野の流体、構造、複合材料、マルチ力学の4テーマを統合して開催し、Frontflow/blue、FrontISTR、FrontCOMP、REVOCAPの内容紹介・討論が行われた。本分野は特に次世代のものづくりに役立つ高度なソフトウェアに対する産業界からの期待が大きく、

定員を大きく上回る127名の参加者があった。最後の全体質疑応答では、いかにして開発ソフトウェアを製品開発・研究開発の現場で使えるものにするかにつき、ユーザやソフトウェアベンダー等いろいろな立場からの白熱した議論がなされた。

今回の統合ワークショップは、先端的でかつ実用的なソフトウェアの開発を目指している本プロジェクトにおいて極めて有意義な機会となった。

（革新的シミュレーション研究センター
畑田 敏夫）

Frontflow/blue でのモデル細分計算例



Refiner なし
75420節点, 370337要素

Refiner あり
547789節点, 2962696要素



ナノ・量子バイオ分野会場風景



ものづくり分野会場風景

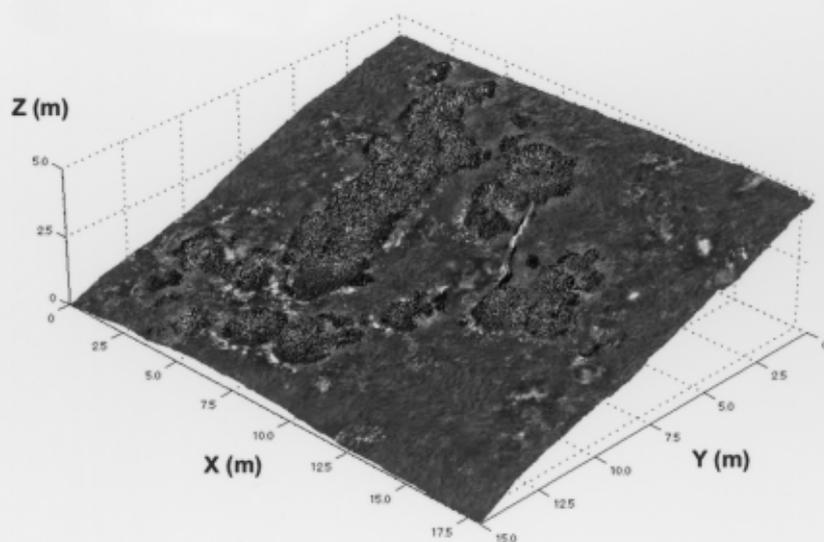
— 継続と創生 —

第45回海中海底工学フォーラム開催される

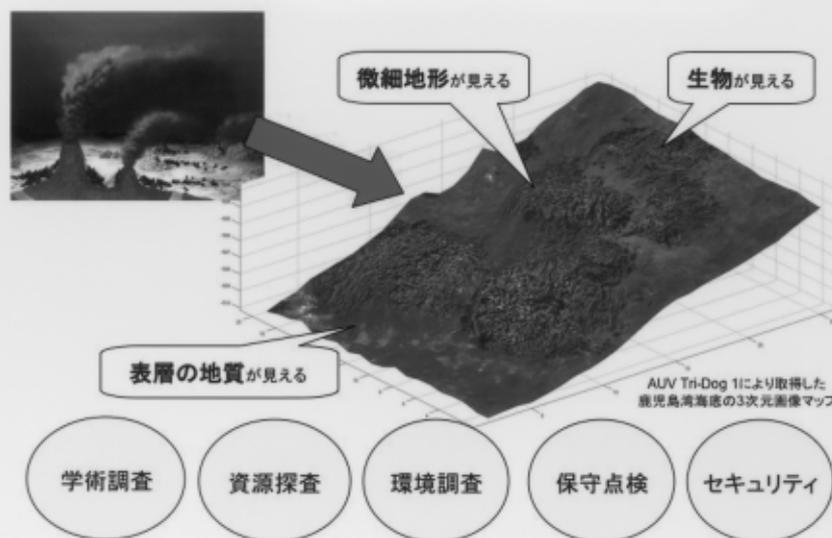
海中工学国際研究センターでは、理学と工学の交流を旨として、年に2回、海中海底工学フォーラム（生研フォーラム）を開催している。春のフォーラムは本所で、秋のフォーラムは大気海洋研究所（平成22年4月より海洋研究所が改組）で開催される。4月16日（金）、第45回海中海底工学フォーラムが250名以上の参加者を得て開催された。つまり、本フォーラムは20年以上にわたり続けられてきた事になる。継続は力となり「海」研究に新しい息吹をもたらすか、あるいはマンネリに陥るのか、その真が問われるところである。クラゲの発光・蛍光現象を利用したバイオイメージング技術の紹介に始まり、自律型海中ロボットによる鹿児島湾たぎり噴気帯のサツマハオリムシの観測とその3次元画像、平成21年本学が取得した日本の数少ない沖合プラットフォーム「平塚沖総合実験タワー」でのパルスドップラーレーダによる海面観測、海底ケーブルを用いた小型・低コスト海底地震・津波観測システムなど、最先端を切り開くバラエティに富んだ研究がてんこ盛りで紹介され、議論が沸騰した会合となった。発光タンパクのほとんどが海から得られているという。今後、フォーラムを続けることで、さまざまな視点から海に関わる人達が増え、その混沌の中から、新しい研究・開発が生まれてくることを期待している。

（海中工学国際研究センター
特任研究員 杉松 治美）

3次元画像マッピング



海底の“Google Earth”化を目指して



〔自律型海中ロボット(Tri-Dog1)による鹿児島湾たぎり噴気帯のサツマハオリムシの観測とその3次元画像
(本所、巻俊宏准教授の講演より)〕

VISITS

外国人研究者講演会

<p>3月8日(月) 司会：准教授 羽田野直道</p> <p>Dr. Tomio Petrosky Senior Researcher, Center for Complex Quantum Systems, University of Texas at Austin, USA POINCARÉ'S THEOREM ON NON-INTEGRABLE SYSTEMS AND KAM THEORY IN NONLINEAR DYNAMICS -AN INTRODUCTORY LECTURE-</p>	<p>5月19日(水) 司会：教授 大岡龍三</p> <p>Prof. Michael A. Humphreys Oxford Brookes University, United Kingdom THE RELATION BETWEEN CLIMATE AND THERMAL COMFORT INDOORS</p>
<p>3月26日(金) 司会：准教授 羽田野直道</p> <p>Prof. Wei-Mou Zheng Institute of Theoretical Physics, Academia Sinica, Beijing, China FAST ALIGNMENT OF PROTEIN STRUCTURES BASED ON CONFORMATIONAL LETTERS</p>	<p>5月20日(木) 司会：教授 黒田和男</p> <p>Dr. Bahram Javidi Board of Trustees Distinguished Professor, University of Connecticut, USA 3D COMPUTATIONAL IMAGING FOR VISUALIZATION AND IDENTIFICATION</p>
<p>4月6日(火) 司会：教授 大島まり</p> <p>Dr. Ryo Torii Research Associate, Imperial College London, United Kingdom TOWARDS THE APPLICATION OF IMAGE-BASED COMPUTATIONAL BIOMECHANICS TO CLINICAL PROBLEMS</p>	

外国人協力研究員

氏名	国籍・所属	研究期間	受入研究室
BAEK, Seung Jeong (白 承政)	大韓民国・関東大学校博士課程	2010. 6. 1~2011. 5. 31	人間・社会系部門 加藤(信)研究室

東京大学特別研究員

氏名	国籍	研究期間	受入研究室
UNTERWEGER, Andreas	オーストリア	2010. 5. 26~2011. 5. 25	基礎系部門 中埜研究室

PERSONNEL

人事異動

生産技術研究所 教員等
(退職)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
22. 3. 31	山本 良一	定年退職	—	教授 グローバル連携拠点グローバル連携分野
22. 3. 31	藤森 照信	定年退職	—	教授 人間・社会系部門都市・建築学分野
22. 3. 31	嶋脇 與助	定年退職	—	助手 人間・社会系部門
22. 3. 31	桑原 雅夫	辞職	教授 東北大学大学院情報科学研究科	教授 附属先進モビリティ研究センター
22. 3. 31	鈴木 高宏	辞職	政策監 長崎県産業労働部	准教授 機械・生体系部門
22. 3. 31	西野 晃徳	辞職	准教授 神奈川工科大学	助教 基礎系部門
22. 3. 31	大田 省一	辞職	特任准教授 京都工芸繊維大学	助教 人間・社会系部門

(学内異動(出))

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
22. 3. 16	芳村 圭	配置換	准教授 気候システム研究センター	准教授 人間・社会系部門
22. 4. 1	目黒 公郎	配置換	教授 大学院情報学環	教授 附属都市基盤安全工学国際研究センター

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
22. 4. 1	中野 公彦	配置換	准教授 大学院情報学環	准教授 附属先進モビリティ研究センター

(学内異動(入))

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
22. 3. 31	鈴木 高宏	配置換	准教授 機械・生体系部門	准教授 大学院情報学環
22. 4. 1	鹿園 直毅	昇任	教授 附属エネルギー工学連携研究センター	准教授 大学院工学系研究科
22. 4. 1	加藤 孝明	昇任	准教授 附属都市基盤安全工学国際研究センター	助教 大学院工学系研究科

(所内異動)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
22. 4. 1	巻 俊宏	昇任	准教授 附属海中工学国際研究センター	助教 附属海中工学国際研究センター
22. 4. 1	桑野 玲子	配置換	准教授 附属都市基盤安全工学国際研究センター	准教授 グローバル連携拠点グローバル連携分野
22. 4. 1	川勝 英樹	配置換	教授 附属マイクロナノメカトロニクス国際研究センター	教授 附属マイクロメカトロニクス国際研究センター

PERSONNEL

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
22. 4. 1	藤井 輝夫	配置換	教授 附属マイクロメカトロニクス国際研究センター	教授 附属マイクロメカトロニクス国際研究センター
22. 4. 1	金 範埃	配置換	准教授 附属マイクロメカトロニクス国際研究センター	准教授 附属マイクロメカトロニクス国際研究センター
22. 4. 1	竹内 昌治	配置換	准教授 附属マイクロメカトロニクス国際研究センター	准教授 附属マイクロメカトロニクス国際研究センター
22. 4. 1	河野 崇	配置換	准教授 附属マイクロメカトロニクス国際研究センター	准教授 附属マイクロメカトロニクス国際研究センター
22. 4. 1	尾上 弘晃	配置換	助教 附属マイクロメカトロニクス国際研究センター	助教 附属マイクロメカトロニクス国際研究センター
22. 4. 1	安宅 学	配置換	助手 附属マイクロメカトロニクス国際研究センター	助手 附属マイクロメカトロニクス国際研究センター

(採用)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
22. 4. 1	TIXIEREPOUSE MITA AGNES LAURE MARIE BEATRICE	採用	准教授 附属マイクロメカトロニクス国際研究センター	—
22. 4. 1	更田 裕司	採用	助教 情報・エレクトロニクス系部門	大阪大学大学院情報科学研究科情報システム工学専攻博士後期課程

(任期付教員)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
22. 4. 1	田中 肇	配置換	教授 基礎系部門ソフトマター物理学分野	—
22. 4. 1	合原 一幸	配置換	教授 情報・エレクトロニクス系部門数理情報工学分野	—
22. 4. 1	藤田 博之	配置換	教授 附属マイクロメカトロニクス国際研究センターマイクロメカトロニクス分野	教授 附属マイクロメカトロニクス国際研究センターマイクロメカトロニクス分野
22. 4. 1	渡辺 正	配置換	教授 グローバル連携拠点グローバル連携分野	教授 附属サステイナブル材料国際研究センター持続性材料化学分野

(所長・附属研究施設長)

発令年月日	氏名	異動内容	新兼務職名・所属	旧兼務職名・所属
22. 4. 1	藤田 博之	兼務	副所長	—
22. 4. 1	光田 好孝	兼務	副所長	—
22. 4. 1	中埜 良昭	兼務	副所長	—
22. 4. 1	林 昌奎	兼務	千葉実験所所長補佐	—
22. 4. 1	加藤 千幸	兼務	附属革新的シミュレーション研究センター長	—
22. 4. 1	堤 敦司	兼務	附属エネルギー工学連携研究センター長	—
22. 4. 1	須田 義大	兼務	附属先進モビリティ研究センター長	—
22. 4. 1	藤田 博之	兼務	附属マイクロメカトロニクス国際研究センター長	—
22. 4. 1	森田 一樹	兼務	附属サステイナブル材料国際研究センター長	—
22. 4. 1	岡部 徹	兼務	附属サステイナブル材料国際研究センター副センター長	—

(死亡)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
22. 3.11	溝部 裕司	死亡	—	教授 物質・環境系部門機能性分子工学分野

(兼任教員)

発令年月日	氏名	異動内容	兼務職名・所属	本務職名・所属
22. 4. 1	村松 伸	兼任	教授 人間・社会系部門	大学共同利用機関法人総合地球環境学研究所研究部教授
22. 4. 1	桑原 雅夫	兼任	教授 附属先進モビリティ研究センター	国立大学法人東北大学大学院情報科学研究科教授

(兼務教員)

発令年月日	氏名	異動内容	兼務職名・所属	本務職名・所属
22. 3.16	芳村 圭	兼務	准教授 人間・社会系部門	准教授 気候システム研究センター
22. 4. 1	大島 まり	兼務	教授 機械・生体系部門	教授 大学院情報学環
22. 4. 1	池内 克史	兼務	教授 附属先進モビリティ研究センター	教授 大学院情報学環
22. 4. 1	年吉 洋	兼務	教授 附属マイクロメカトロニクス国際研究センター	教授 先端科学技術研究センター
22. 4. 1	瀬崎 薫	兼務	准教授 情報・エレクトロニクス系部門	准教授 空間情報科学研究センター
22. 4. 1	高宮 真	兼務	准教授 情報・エレクトロニクス系部門	准教授 大規模集積システム設計教育研究センター
22. 4. 1	佐藤 洋一	兼務	准教授 附属戦略情報融合国際研究センター	准教授 大学院情報学環
22. 4. 1	根本 利弘	兼務	准教授 情報・エレクトロニクス系部門	准教授 地球観測データ統合連携研究機構
22. 4. 1	前田 正史	兼務	教授 附属サステイナブル材料国際研究センター	理事・副学長
22. 4. 1	尾張 眞則	兼務	教授 物質・環境系部門	教授 環境安全研究センター
22. 4. 1	安達 毅	兼務	准教授 物質・環境系部門	准教授 環境安全研究センター
22. 4. 1	柴崎 亮介	兼務	教授 人間・社会系部門	教授 空間情報科学研究センター
22. 4. 1	大原 美保	兼務	准教授 附属都市基盤安全工学国際研究センター	准教授 大学院情報学環
22. 4. 1	芳村 圭	兼務	准教授 人間・社会系部門	准教授 大気海洋研究所
22. 4. 1	中野 公彦	兼務	准教授 附属先進モビリティ研究センター	准教授 大学院情報学環
22. 4. 1	目黒 公郎	兼務	教授 附属都市基盤安全工学国際研究センター	教授 大学院情報学環
22. 4. 1	佐藤 光三	兼務	教授 附属エネルギー工学連携研究センター	教授 大学院工学系研究科
22. 4. 1	堂免 一成	兼務	教授 附属エネルギー工学連携研究センター	教授 大学院工学系研究科
22. 4. 1	田中 知	兼務	教授 附属エネルギー工学連携研究センター	教授 大学院工学系研究科
22. 4. 1	藤井 康正	兼務	教授 附属エネルギー工学連携研究センター	教授 大学院工学系研究科
22. 4. 1	菊地 隆司	兼務	准教授 附属エネルギー工学連携研究センター	准教授 大学院工学系研究科

(客員部門)

発令年月日	氏名	異動内容	職名・所属	旧職名・所属
22. 4. 1	CHUNG, Edward	委嘱称号付与	講師(客員教授) 附属先進モビリティ研究センター	—
22. 4. 1	高田 章	委嘱称号付与	講師(客員教授) 高次協調モデリング部門	—
22. 4. 1	許 正憲	委嘱称号付与	講師(客員教授) 附属海中工学国際研究センター	—
22. 4. 1	小高 俊彦	委嘱称号付与	講師(客員教授) 附属戦略情報融合国際研究センター	—
22. 4. 1	横田 弘	委嘱称号付与	講師(客員教授) 附属都市基盤安全工学国際研究センター	—

PERSONNEL

発令年月日	氏名	異動内容	職名・所属	旧職名・所属
22. 4. 1	市橋 康吉	委 嘱 称号付与	講師（客員教授） 附 属都市基盤安全工学国 際研究センター	—
22. 4. 1	澤田 賢治	委 嘱 称号付与	講師（客員教授） 附 属サステイナブル材料 国際研究センター	—
22. 4. 1	富山 哲男	委 嘱 称号付与	講師（客員教授） 人 間・社会系部門	—
22. 4. 1	田中 敏久	委 嘱 称号付与	講師（客員教授） 附 属先進モビリティ研究 センター	—
22. 4. 1	塚本 修	委 嘱	教授 附属先進モビ リティ研究センター	（本務：経済産業省地 域経済産業審議官）
22. 4. 1	藤田 明博	委 嘱	教授 附属先進モビ リティ研究センター	（本務：内閣府政策統 括官（科学技術政策・ イノベーション担当））
22. 4. 1	丸山 康樹	委 嘱 称号付与	講師（客員教授） 附 属エネルギー工学連携 研究センター	—
22. 4. 1	中村 崇	委 嘱 称号付与	講師（客員教授） 附 属サステイナブル材料 国際研究センター	—
22. 4. 1	大和田秀二	委 嘱 称号付与	講師（客員教授） 附 属サステイナブル材料 国際研究センター	—
22. 4. 1	山口 勉功	委 嘱 称号付与	講師（客員教授） 附 属サステイナブル材料 国際研究センター	—
22. 4. 1	柴山 敦	委 嘱 称号付与	講師（客員教授） 附 属サステイナブル材料 国際研究センター	—
22. 4. 1	呉 光強	委 嘱 称号付与	講師（客員教授） 機 械・生体系部門	—
22. 4. 1	鈴木 高宏	委 嘱 称号付与	講師（客員准教授） 附属先進モビリティ研 究センター	—

（寄付研究部門）

発令年月日	氏名	異動内容	職名・所属	本務職名・所属
22. 4. 1	黒田 和男	兼 務	特任教授 ニコン光工 学寄付研究部門	教授 基礎系部門
22. 4. 1	志村 努	兼 務	特任教授 カラー・サイ エンス寄付研究部門 （ソニー）	教授 基礎系部門
22. 4. 1	須田 義大	兼 務	特任教授 モビリティ ・フィールドサイエン ス（タカラトミー）寄 付研究部門	教授 機械・生体系部 門

（特任教員）

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
22. 3.16	楊 征路	任 命	特任助教	特任研究員
22. 3.31	PETROSKY TOMIO YAMAKOSHI	任期満了	上席研究員 テキサス 大学複雑量子系研究所	特任教授
22. 3.31	福場 辰洋	任期満了 （プロジェ クト変更）	特任准教授	特任准教授
22. 3.31	中岡 俊裕	任期満了	准教授 上智大学	特任准教授
22. 3.31	大家 哲朗	任期満了	専任講師 慶應義塾大学	特任助教
22. 3.31	三澤 宣雄	任期満了	特任助教 豊橋技術科 学大学	特任助教
22. 3.31	工藤 俊亮	任期満了	准教授 電気通信大学	特任助教
22. 3.31	鍛冶 伸裕	任期満了 （プロジェ クト変更）	特任助教	特任助教
22. 3.31	合田 和生	任期満了 （プロジェ クト変更）	特任助教	特任助教

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
22. 3.31	楊 征路	任期満了 （プロジェ クト変更）	特任助教	特任助教
22. 3.31	吉永 直樹	任期満了 （プロジェ クト変更）	特任助教	特任助教
22. 3.31	高橋 幸奈	任期満了	特任助教（短時間）	特任助教
22. 3.31	松原 一喜	任期満了	特任助教 大阪大学	特任助教
22. 3.31	守利 悟朗	任期満了	特任助教 地球観測 データ統合連携研究 機構	特任助教
22. 3.31	石田 義洋	任期満了	—	特任教授（短時間）
22. 4. 1	福場 辰洋	採用（プロ ジェクト変更）	特任准教授	特任准教授
22. 4. 1	RONDELEZ YANNICK FRANCOIS	採 用	特任准教授（短時間）	—
22. 4. 1	金 岡秀	採 用	特任助教	常勤嘱託博士研究員 NTT先端技術総合研 究所 NTTコミュニケー ション科学基礎研究所
22. 4. 1	岡本 泰英	採 用	特任助教	東京大学大学院情報 理工学系研究科コン ピュータ科学専攻博士 課程
22. 4. 1	金 吉洙	任 命	特任助教	特任研究員
22. 4. 1	宮地 幸祐	任 命	特任助教	特任研究員
22. 4. 1	鍛冶 伸裕	採用（プロ ジェクト変更）	特任助教	特任助教
22. 4. 1	合田 和生	採用（プロ ジェクト変更）	特任助教	特任助教
22. 4. 1	楊 征路	採用（プロ ジェクト変更）	特任助教	特任助教
22. 4. 1	吉永 直樹	採用（プロ ジェクト変更）	特任助教	特任助教
22. 4. 1	趙 毅	採 用	特任助教	外国人特別研究員 日 本学術振興会
22. 4. 1	劉 榮昌	任 命	特任助教	特任研究員
22. 4. 1	佐々木秀顕	採 用	特任助教（短時間）	—
22. 4. 1	高橋 幸奈	採 用	特任助教（短時間）	特任助教
22. 4. 1	SUNKAR AHMET SEMIH	採 用	特任助教（短時間）	—
22. 4. 1	野瀬 勝弘	採 用	特任助教（短時間）	—
22. 4.16	木口 雅司	任 命	特任助教	特任研究員
22. 4.30	野瀬 勝弘	辞 職	特任助教	特任助教（短時間）
22. 5. 1	野瀬 勝弘	採 用	特任助教	特任助教（短時間）

（特任研究員）

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
22. 3.31	杉松 治美	任期満了 （プロジェ クト変更）	特任研究員	特任研究員
22. 3.31	永井 萌土	任期満了	助教 豊橋技術科学大 学	特任研究員
22. 3.31	GREGORY TORTISSIER	任期満了	外国人特別研究員 日 本学術振興会	特任研究員
22. 3.31	SUN WINSTON	任期満了	—	特任研究員
22. 3.31	楊 鵬	任期満了	システムアナリスト みずほ情報総研株式 会社	特任研究員

PERSONNEL

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
22. 3.31	岩田 達夫	任期満了	特定事業研究員 三重大学社会連携研究センター	特任研究員
22. 3.31	安田 大樹	任期満了	YRPユビキタス・ネットワークワーキング研究所	特任研究員
22. 3.31	赤塚 慎	任期満了	非常勤研究員 山梨県環境科学研究所	特任研究員
22. 4. 1	杉松 治美	採用 (プロジェクト変更)	特任研究員	特任研究員
22. 4. 1	中谷 武志	採用	特任研究員	特別研究員 東京大学
22. 4. 1	石東 真典	採用	特任研究員	2号非常勤職員 産業技術総合研究所エネルギー技術研究部門
22. 4. 1	焦 震鈞	任命	特任研究員	特任研究員 大学院工学系研究科
22. 4. 1	橋本 彰	任命	特任研究員	技師長 三菱重工株式会社技術本部 (H22.4~長菱エンジニアリング株式会社休職)
22. 4. 1	近藤 愛子	採用	特任研究員	技術補佐員(派遣職員)
22. 4. 1	嶋田友一郎	採用	特任研究員	研究員 (科学研究) 京都大学大学院人間・環境学研究所
22. 4. 1	TARHAN MEHMET CAGATAY	採用	特任研究員	東京大学大学院工学系研究科電気工学専攻博士課程
22. 4. 1	上村 淳	採用	特任研究員	特別研究員 日本学術振興会
22. 4. 1	金 炯俊	採用	特任研究員	東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻博士課程
22. 4. 1	八木田克英	採用	特任研究員	特任研究員 (短時間)
22. 4. 1	川崎 昭如	採用	特任研究員	特別研究員 東京大学
22. 4. 1	近藤 伸也	採用	特任研究員	主任研究員 (財)ひょうご震災記念21世紀研究機構人と防災未来センター
22. 4. 1	HENRY MICHAEL WARD	採用	特任研究員	東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻博士課程
22. 4.16	BASHARMD. KHAYRUL	採用	特任研究員	特任助教 名古屋大学大学院工学研究科

(学術支援専門職員)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
22. 4. 1	皆川 廣司	採用	学術支援専門職員	学術支援専門職員 (短時間)
22. 4. 1	内宮 良江	採用	学術支援専門職員	事務補佐員
22. 4.30	小笠原早苗	辞職	技術員 科学技術振興機構	学術支援専門職員
22. 5. 1	松本 直子	採用	学術支援専門職員	事務員 科学技術振興機構

(学術支援職員)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
22. 3.31	プロヴァン 真砂子	任期満了	—	学術支援職員
22. 4. 1	岩本 慶子	採用	学術支援職員	事務補佐員
22. 4. 1	小池 理子	採用	学術支援職員	事務補佐員

生産技術研究所 技術系

(退職)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
22. 3.31	千原 正男	定年退職	—	技術専門員 基礎系部門

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
22. 3.31	瀬川 茂樹	定年退職	—	技術専門員 機械・生体系部門
22. 3.31	鈴木 文博	定年退職	—	技術専門員 機械・生体系部門
22. 3.31	小駒 幸江	定年退職	—	技術専門員 人間・社会系部門
22. 3.31	小野寺 章	定年退職	—	技術専門員 試作工場

(所内異動)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
22. 4. 1	高橋 巧也	配置換	技術職員 附属マイクロナノメカトロニクス国際研究センター	技術職員 附属マイクロメカトロニクス国際研究センター

(再雇用)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
22. 3.31	岡田 和三	再雇用 任期満了	—	再雇用教職員 機械・生体系部門
22. 4. 1	千原 正男	再雇用	再雇用教職員 基礎系部門	—
22. 4. 1	瀬川 茂樹	再雇用	再雇用教職員 機械・生体系部門	—
22. 4. 1	鈴木 文博	再雇用	再雇用教職員 機械・生体系部門	—
22. 4. 1	小駒 幸江	再雇用	再雇用教職員 人間・社会系部門	—
22. 4. 1	小野寺 章	再雇用	再雇用教職員 試作工場	—
22. 4. 1	鶴 達郎	再雇用 任期更新	再雇用教職員 物質・環境系部門	—
22. 4. 1	小西 義幸	再雇用 任期更新	再雇用教職員 試作工場	—
22. 4. 1	小池 雅洋	再雇用 任期更新	再雇用教職員 人間・社会系部門	—
22. 4. 1	星野 富夫	再雇用 任期更新	再雇用教職員 人間・社会系部門	—
22. 4. 1	米良 忠久	再雇用 任期更新	再雇用教職員 試作工場	—
22. 4. 1	福尾 哲二	再雇用 任期更新	再雇用教職員 試作工場	—
22. 4. 1	倉科満壽夫	再雇用 任期更新	再雇用教職員 映像技術室	—
22. 4. 1	鈴木 常夫	再雇用 任期更新	再雇用教職員 電子計算機室	—
22. 4. 1	高山 俊雄	再雇用 任期更新	再雇用教職員 物質・環境系部門	—

生産技術研究所 事務系

(学内異動 (出))

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
22. 4. 1	大西 淳彦	配置換	事務長 法学政治学研究科等	総務課長
22. 4. 1	高橋 浩幸	配置換	副課長 本部研究推進部博物館事業課	総務課副課長
22. 4. 1	久下谷清美	配置換	副課長 医学部附属病院管理課経理チーム	総務課副課長 (研究環境調整室)
22. 4. 1	小椋山克則	配置換	副事務長 (経理担当) 柏地区共通事務センター	経理課副課長
22. 4. 1	今村 泰代	昇任	専門員 工学系・情報理工学系等総務課	総務課係長 (人事・厚生チーム)
22. 4. 1	関 豊	昇任	専門職員 大気海洋研究所経理課施設・安全管理チーム	経理課係長 (連携研究支援室国際産学チーム)
22. 4. 1	國京 毅明	昇任	係長 大気海洋研究所経理課 施設・安全管理チーム	総務課主任 (研究環境調整室施設チーム)

PERSONNEL

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
22. 4. 1	堀越 崇弘	配置換	一般職員 本部産学連携部産学連携課総務チーム	総務課一般職員(人事・厚生チーム)
22. 4. 1	弥富有希子	配置換	一般職員 本部財務部財務課(文部科学省行政実務 研修生)	経理課一般職員(連携研究支援室執行チーム)

(学内異動(入))

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
22. 4. 1	増田 浩一	昇任	総務課長 研究環境調整室長(兼務)	副課長 本部人事・労務系人材育成グループ
22. 4. 1	渡邊 一兄	配置換	経理課副課長 連携研究支援室長	副課長 柏地区経理担当課(給与・施設グループ兼務)
22. 4. 1	水野 伸	昇任	総務課主査(研究環境調整室) 施設チームサブリーダー	係長 本部調達・経理系調達グループ調達企画チーム
22. 4. 1	永野 太	配置換	総務課係長(研究環境調整室施設チーム)	施設係長 海洋研究所経理課
22. 4. 1	千葉 大輔	昇任	経理課主任(連携研究支援室執行チーム)	一般職員 東洋文化研究所財務チーム<会計担当>
22. 4. 1	長田 朱美	配置換	経理課一般職員(連携研究支援室企画チーム)	本部研究推進系研究機構等支援グループ運営支援チーム

(復帰)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
22. 4. 1	大塚 章	復帰	総務課係長(人事・厚生チーム) 人事・厚生チームサブリーダー	人事照査掛長 東京医科歯科大学総務部人事課

(採用)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
22. 4. 1	竹内 碧	採用	総務課一般職員(総務・広報チーム)	—
22. 4. 1	中竹 聖也	採用	総務課一般職員(人事・厚生チーム)	—

(所内異動)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
22. 4. 1	野崎 勝利	命	総務課専門員(研究環境調整室施設チーム) 施設チームリーダー 研究環境調整室室長補佐	総務課専門員(研究環境調整室施設チーム) 施設チームリーダー
22. 4. 1	加藤 洋一	配置換	経理課専門職員(最先端研究開発支援室総務支援チーム) 総務支援チームリーダー	総務課専門職員(研究総務チーム)
22. 4. 1	市村 和巳	命	総務課係長(人事・厚生チーム) 人事・厚生チームリーダー	総務課係長(人事・厚生チーム) 人事・厚生チームサブリーダー
22. 4. 1	中村 正樹	免	総務課係長(研究環境調整室施設チーム)	総務課係長(研究環境調整室施設チーム) 施設チームサブリーダー
22. 4. 1	野沢 和子	昇任	経理課係長(予算執行チーム) 予算執行チームサブリーダー	経理課主任(予算執行チーム)
22. 4. 1	伊藤 正則	配置換	経理課係長(連携研究支援室国際産学チーム) 国際産学チームリーダー	総務課係長(研究環境調整室安全衛生チーム) 安全衛生チームサブリーダー
22. 4. 1	大西 琢磨	配置換	経理課係長(最先端研究開発支援室経理支援チーム) 経理支援チームリーダー	経理課係長(予算執行チーム) 予算執行チームサブリーダー
22. 4. 1	平山 栄作	昇任	総務課主任(人事・厚生チーム)	総務課一般職員(人事・厚生チーム)
22. 4. 1	水落 利明	昇任	総務課主任(図書チーム)	総務課一般職員(図書チーム)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
22. 4. 1	木下 勝弘	昇任	経理課主任(財務・監査チーム)	経理課一般職員(財務・監査チーム)

(再雇用)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
22. 3.31	二宮 一郎	再雇用 任期満了	—	再雇用教職員 総務課図書チーム
22. 3.31	小出 幸夫	再雇用 任期満了	—	再雇用教職員 附属千葉実験所
22. 4. 1	鈴木 照夫	配置換	再雇用教職員 柏地区共通事務センター施設係	再雇用教職員 総務課研究環境調整室 施設チーム
22. 4. 1	三井 伸子	再雇用 任期更新	再雇用教職員 総務課総務・広報チーム	—
22. 4. 1	三浦 孝樹	再雇用 任期更新	再雇用教職員 経理課予算執行チーム	再雇用教職員 経理課連携研究支援室企画チーム
22. 4. 1	林 美郷	再雇用	再雇用教職員 千葉実験所事務室	係長 柏地区経理課契約チーム

(休職)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
22. 3.14	佐藤 綾子	休職更新	一般職員 総務課総務・広報チーム	—

(特任専門員)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
22. 4. 1	依田 晴樹	命	特任専門員(千葉実験所整備準備室) 経理課最先端研究開発支援室長	特任専門員(千葉実験所整備準備室)

(特任専門職員)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
22. 4. 1	櫻井 直人	採用	特任専門職員 経理課最先端研究開発支援室	再雇用教職員 地震研究所

地球観測データ統合連携研究機構 教員等

(特任教員)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
22. 3.31	長井 正彦	任期満了	招聘研究員 副センター長 独立行政法人宇宙航空研究開発機構アジア工科大学院 Geoinformatics Center	特任助教
22. 3.31	賀 斌	任期満了	特任助教 京都大学	特任助教
22. 3.31	松崎慎一郎	任期満了	任期付研究員 独立行政法人国立環境研究所	特任助教
22. 4. 1	田村 徹	採用	特任助教	特任研究員 大学院工学系研究科
22. 4. 1	守利 悟朗	採用	特任助教	特任助教 生産技術研究所
22. 4. 1	王 磊	採用	特任助教	特任研究員 大学院工学系研究科

(特任研究員)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
22. 3.31	大石 龍太	任期満了	特任研究員 大気海洋研究所	特任研究員
22. 4. 1	今田由紀子	採用	特任研究員	東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻博士課程
22. 4. 1	KOUDELOVAA PETRA	採用	特任研究員	—
22. 4. 1	杉本 賢二	採用	特任研究員	東京大学大学院新領域創成科学研究科社会文化環境学専攻博士後期課程

PERSONNEL

(学術支援専門職員)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
22. 3.31	佐藤 學	任期満了	—	学術支援専門職員
22. 4. 1	池谷由美子	採用	学術支援専門職員	技術補佐員 大学院工学系研究科

ナノ量子情報エレクトロニクス研究機構 教員等

(兼務教員)

発令年月日	氏名	異動内容	兼務職名・所属	本務職名・所属
22. 4. 1	荒川 泰彦	兼務	教授	教授 生産技術研究所
22. 4. 1	今井 浩	兼務	教授	教授 大学院情報理工学系研究科
22. 4. 1	大津 元一	兼務	教授	教授 大学院工学系研究科
22. 4. 1	勝本 信吾	兼務	教授	教授 物性研究所
22. 4. 1	五神 真	兼務	教授	教授 大学院工学系研究科
22. 4. 1	田中 雅明	兼務	教授	教授 大学院工学系研究科
22. 4. 1	樽茶 清悟	兼務	教授	教授 大学院工学系研究科
22. 4. 1	平川 一彦	兼務	教授	教授 生産技術研究所
22. 4. 1	平本 俊郎	兼務	教授	教授 生産技術研究所
22. 4. 1	古澤 明	兼務	教授	教授 大学院工学系研究科
22. 4. 1	山内 薫	兼務	教授	教授 大学院理学系研究科
22. 4. 1	染谷 隆夫	兼務	教授	教授 大学院工学系研究科
22. 4. 1	高橋 琢二	兼務	准教授	准教授 生産技術研究所
22. 4. 1	町田 友樹	兼務	准教授	准教授 生産技術研究所
22. 4. 1	村尾 美緒	兼務	准教授	准教授 大学院理学系研究科
22. 4. 1	岩本 敏	兼務	准教授	准教授 生産技術研究所

(客員部門)

発令年月日	氏名	異動内容	職名・所属	本務職名・所属
22. 4. 1	野田 進	委嘱	教授	教授 京都大学工学研究科
22. 4. 1	田原 修一	委嘱 称号付与	講師(客員教授)	—
22. 4. 1	高橋 明	委嘱 称号付与	講師(客員教授)	—
22. 4. 1	横山 直樹	委嘱 称号付与	講師(客員教授)	—
22. 4. 1	竹内 繁樹	委嘱	教授	教授 北海道大学電子科学研究科
22. 4. 1	山本 喜久	委嘱	教授	教授 情報・システム研究機構国立情報学研究所
22. 4. 1	石田 寛人	委嘱 称号付与	講師(客員教授)	—
22. 4. 1	武田 晴夫	委嘱 称号付与	講師(客員教授)	—
22. 4. 1	菅原 充	委嘱 称号付与	講師(客員教授)	—

(特任教員)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
22. 3.31	森山 園子	任期満了	准教授 東北大学大学院情報科学研究科	特任講師

(特任研究員)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
22. 3.31	金 奈映	任期満了	リサーチアソシエイト スタンフォード大学	特任研究員

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
22. 3.31	BYRNES TIMOTHY MASAMI RONALD	任期満了	助教 国立情報学研究所 情報学プリンシプル研究系	特任研究員
22. 4. 1	増淵 覚	採用	特任研究員	特別研究員 日本学術振興会
22. 5. 1	盧 柱亨	任命	特任研究員	ウェハ・オペレーション・マネージャ 株式会社QDレーザ(休職)

総括プロジェクト機構寄付研究部門「水の知」(サントリー) 総括寄付講座 教員等

(特任研究員)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
22. 3.31	坂田加奈子	任期満了	特任研究員(短時間)	特任研究員

昇任のご挨拶

附属海中工学国際研究センター 准教授

巻 俊宏



これまで浦研究室にてAUV(自律型水中ロボット)による海底観測手法に取り組んでまいりました。今後は、AUVと他の海中プラットフォームを組み合わせることでより広範囲・長時間・高精度な観測を可能とするシステムの開発を目指します。資源に乏しいと言われる我が国ですが、四方を取り囲む海には食糧、鉱物、エネルギーなど様々な資源が眠っています。海中探査技術はこれら資源を活用するための鍵となります。生研という恵まれた環境において、このような重要な研究に携わることができて大変光栄です。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

着任のご挨拶

附属エネルギー工学連携研究センター 教授

鹿園 直毅



高温から低温まで、熱をキーワードにエネルギーを高効率に使うために必要となる新たなエネルギー技術に関する研究を行っています。特に、固体酸化燃料電池(SOFC)、新型蒸気サイクル、ヒートポンプ等を対象に、機構解明のための基礎研究とともに、新規なコンセプト提案と実証まで実現したいと考えております。

生研の先生方と協力して学術、技術の高度化に貢献していきたいと思っております。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

PERSONNEL

附属都市基盤安全工学国際研究センター
准教授

加藤 孝明



4月1日付で、工学系研究科都市工学専攻より都市基盤安全工学国際研究センターの准教授に着任しました。生研では専門分野を「地域安全システム学」と称させていただくことになりました。従来の都市防災の枠を超え、都市・地域の安全という視点から街の空間構造・構成、それを支える社会的なしくみ、さらにITやGISを活用した安全に寄与するシステムについて幅広く研究活動を行っていきたいと考えています。生研の関連分野の皆さまと連携し、創発的な研究成果に結びつけられたら幸いです。

附属マイクロナノメカトロニクス
国際研究センター 准教授

Tixier Mita Agnes



みなさんこんにちは。アニエスと申します。フランス人です。

私は1999年に日本学術振興会のポスドクとして来日しまして、藤田博之先生の研究室に入りました。博士課程は、イタリア・ミラノ市にある、大規模集積回路(VLSI)のメーカーSTMicroelectronics社の研究所にいました。

日本に着いたばかりのころは、日本語もまったくできず、マイクロ電気機械システム(MEMS)についても詳しいことは知りませんでした。ですので日本に来てから研究室の学生のみなさん(特に約1名)に習ってMEMSの勉強をしました。その当時は、生研のキャンパスは六本木にありました。2001年に駒場キャンパスに移転して、新しい環境、新しい建物で心機一転、藤田研究室で生研の助手としてスタートを切りました。2005年にフランス国立科学研究センター(CNRS)の、LIMMS-CNRS/IIS付きのリサーチエンジニアになりました。ポスドク時代の研究は、光マイクロシステムの三次元集積化のテーマから始まり、それから新しく立ちあがりつつあった分野のバイオMEMSに注力しました。その後しばらくバイオMEMSの方向で研究を続けました。細胞捕獲用のナノホールアレイや、分子モーター可視化用のナノニードルの大量作製といった成果が得られました。2007年から2010年の3年間の間に、二人の息子を授かったこと、夫のサバティカルに付き添って海外に行ったこともあって、研究のキャリアは一旦お休みになりました。今またこうして、東京大学という恵まれた研究環境に戻ってこれたことにとっても感謝しています。今後は博士時代の専門と、博士以降の専門との融合分野である集積化MEMS分野の研究を、微力ながら行なっていきたいと考えています。どうぞよろしく願い致します。

機械・生体系部門 客員教授

呉 光強



Since 2000, I have been the professor and the director at Institute of Automotive Simulation Science, Tongji University, China. It's more than ten years, and in this course I came to the Institute of Industrial Science (IIS), within Suda Lab last year. My research interests include mainly advanced design and simulation, nonlinear dynamics & intelligent control, multicriteria and multidisciplinary design optimization of the automobile.

It is a great honor of mine to be appointed as Visiting Professor to IIS, the University of Tokyo. In the following year at IIS, my research efforts will focus on conducting valuable original research in the field of vehicle engineering, finding some governmental or industry-orientated cooperative research projects, meanwhile I'll be involved in the scientific research, academic activities and graduates' cultivation in the Sino-Japanese cooperation, further contribute more to IIS do my best, to which I'll devote all my heart.

I wish to express my sincere gratitude to Prof. Suda for his support, and want to thank the other professors of IIS for their trust.

附属マイクロナノメカトロニクス
国際研究センター 特任准教授

Rondelez Yannick



I'm a french researcher coming from CNRS, the french national institute for science. I have a degree in physical chemistry, but my background also includes biophysics (molecular motors), single molecule works and microfluidics. I have also been a consultant in problem solving and creativity. My current research project focuses on the building of complex dynamics chemical systems akin to biological reaction networks., but built from simple biochemical components. I hope that it can lead to a better understanding of the way living organism process information.

PERSONNEL

総務課長

増田 浩一



4月1日付けで本部人事・労務系人材育成グループから着任しました。東大に採用されて以来、他機関への出向を除き部局に勤務することははじめてです。早く環境になれ、信用・信頼のおける職場環境を確立したいと考えております。工学を中心とするグローバルな教育・研究活動を行っている生研に貢献できるような努力していく所存ですので、皆様よろしくお願いたします。

昇任



●総務課主査
(研究環境調整室)
施設チームサブリーダー
水野 伸



●経理課主任
(連携研究支援室執行チーム)
千葉 大輔

復帰



●総務課係長
(人事・厚生チーム)
人事・厚生チームサブリーダー
大塚 章

採用



●情報・エレクトロニクス
系部門
桜井研究室 助教
更田 裕司



●総務課一般職員
(総務・広報チーム)
竹内 碧



●総務課一般職員
(人事・厚生チーム)
中竹 聖也

配置換



●経理課副課長
連携研究支援室長
渡邊 一兄



●総務課係長
(研究環境調整室施設チーム)
永野 太



●経理課一般職員
(連携研究支援室企画チーム)
長田 朱美

AWARDS

受賞 教員

所属	職・氏名	受賞名・機関	受賞項目	受賞日
物質・環境系部門	准教授 溝口 照康	第19回日本MRS学術シンポジウム 奨励賞 日本MRS	Atomic Structure, Electronic Structure, and Defect Energetics in[001] (310)sigma 5 Grain Boundaries of SrTiO ₃ and BaTiO ₃	2010. 1.15
附属戦略情報融合 国際研究センター	准教授 豊田 正史	上林奨励賞 日本データベース学会	大規模ウェブアーカイブからのコミュニ ティ抽出ツールの構築研究など	2010. 3. 2
附属先進モビリ ティ研究センター	准教授 坂本 慎一	環境音響研究賞 (社)日本音響学会	建築音響と騒音予測におけるFDTD数値解 析の応用	2010. 3. 9

AWARDS

所属	職・氏名	受賞名・機関	受賞項目	受賞日
附属エネルギー工学連携研究センター	特任助教 苜蔗 寂樹	平成21年度 総合研究奨励賞 (財)総合研究奨励会	エクセルギー再生の原理に基づいたプロセス設計手法の開発	2010. 3.18
人間・社会系部門	教授 Ryoza Ooka 研究員 Toshiyuki Hino 大学院学生 Yujin Nam Keisuke Miyauchi 研究実習生 Yusuke Harada	BEST POSTER AWARD CERTIFICATE The AGS(The Alliance for Global Sustainability)	Development of an advanced heat pump system with multiple sources and multiple uses for sustainable building	2010. 3.19
基礎系部門 田中(肇)研究室	助教 古川 亮	日本物理学会若手奨励賞 (社)日本物理学会	ソフトマター、液体、ガラス系における新奇な輸送現象についての種々の研究	2010. 3.21
基礎系部門	准教授 梅野 宜崇	Modelling and Simulation in Materials Science and Engineering : Highlights of 2009 IOP Publishing Ltd.	First-principles approaches to intrinsic strength and deformation of materials : perfect crystals,nano-structures,surfaces and interfaces.	2010. 3.22
附属先進モビリティ研究センター	准教授 橋本 秀紀 東京大学特別研究員 佐々木 毅	SI2009 優秀講演賞 第10回(社)計測自動制御学会 システムインテグレーション部門講演会	効率的な入力データ生成のためのファンクションジェネレータコンポーネント	2010. 3.23
附属都市基盤安全工学国際研究センター	教授 目黒 公郎 元民間等共同研究員、 (財)鉄道総合技術研究所 主任研究員 上半 文昭	平成22年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 科学技術賞(開発部門) 文部科学省	構造物検査用遠隔非接触振動計測システムの開発	2010. 4.13
機械・生体系部門	准教授 岡部 洋二	平成22年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 若手科学者賞 文部科学省	複合材の健全性監視のための組込型超音波診断システムの研究	2010. 4.13
附属エネルギー工学連携研究センター	教授 鹿園 直毅	第22回中小企業優秀新技術・新製品賞 産学官連携特別賞 りそな中小企業振興財団/日刊工業新聞社	表面張力応用マイクロ蛇腹溝の気液分離器	2010. 4.14
附属マイクロナノメカトロニクス国際研究センター	特任助教 桐谷 乃輔	優秀講演賞(学術) (社)日本化学会	マイクロ流路中で自己組織させたヒモ状超分子ゲルの作製	2010. 4.14
附属エネルギー工学連携研究センター	教授 鹿園 直毅 日産自動車(株)・研究員 鈴江 祥典 大学院工学系研究科・教授 笠木 伸英	2009年度日本機械学会論文賞 (社)日本機械学会	確率的再構築・格子ボルツマン法を用いた固体酸化物形燃料電池燃料極のモデリング	2010. 4.23

■受賞 学生

所属	職・氏名	受賞名・機関	受賞項目	受賞日
附属先進モビリティ研究センター 中野(公)研究室	大学院学生 中村 弘毅	大学院研究奨励賞 (社)自動車技術会	動特性を考慮した独立成分分析法による機械振動の解析	2010. 3. 1
附属先進モビリティ研究センター 須田研究室	大学院学生 市原 隆司	大学院研究奨励賞 (社)自動車技術会	ドライバ状態推定によるエコドライブの研究	2010. 3. 1
機械・生体系部門 岡部(洋)研究室	大学院学生 藤林 啓司	ABS賞 工学系研究科 システム創成学専攻	修士論文「モード変換によるラム波の速度変化を利用したCFRP積層板中の層間剥離検知」	2010. 3.24
物質・環境系部門 森田研究室	大学院学生 首藤 洋志	第159回春季講演大会 学生ポスターセッション 最優秀賞 (社)日本鉄鋼協会	溶解シリケート中におけるルテニウムの溶解度と溶解機構	2010.3.29

AWARDS

受賞のことば

附属先進モビリティ研究センター
中野(公)研究室 博士課程1年

中村 弘毅

大学院研究奨励賞
(社)自動車技術会

「動特性を考慮した独立成分分析法による機械振動の解析」



修士課程での研究に対してこのような賞をいただき大変光栄に思っております。独立成分分析(ICA)とは複数の信号から共通の因子を抽出する信号処理手法で、本研究は動特性を含む系へのICAの応用手法を検討しています。提案手法を自動車などの状態監視に用いることで、今後より安全な交通システムを実現することを目指しています。

指導教員の中野公彦准教授、大堀真敬助手をはじめ、助言をいただいた皆様にこの場を借りてお礼申し上げます。

INFORMATION

第6回駒場キャンパス 技術発表会発表者募集について

第6回駒場キャンパス技術発表会実行委員会

第6回駒場キャンパス技術発表会の発表者を募集いたします。

技術職員が日常業務で携わっている実験装置の開発、維持管理から改善、改良の話題に及ぶ広範囲な技術的研究支援活動から得られた成果のみならず、研究・開発しようと思った動機や研究・開発途中におけるつまずき等をどのように乗り越えてきたか、あるいは失敗についても参加者全員で討論できるような技術にかかわる内容などを募集いたします。

また個別研修や全学研修の報告、定年を迎える方が技術職員に伝えたいことや技術職員としての集大成、また若手技術職員の5年毎の仕事内容の見直し報告、あるいは再雇用熟練技術職員が今まで身につけた技術の公開等、職務上の技術問題に限定せず、技術職員等の能力向上に役立つものであれば、どのような分野でも歓迎いたします。

みなさまの積極的な応募をお待ちしております。ご応募は下記実行委員へお願いいたします。

募 集 要 項

開催日：2010年10月15日(金)

場 所：駒場Ⅱリサーチキャンパス コンベンションホール (An棟 2階)

応募資格：技術職員、教務系技術職員、助手、助教、事務職員等

発表形式：口頭発表(20～30分)、誌上発表、ポスター発表

応募〆切：2010年7月12日(月)

応募先：(第1部)片桐 俊彦：内線57273 / (第2部)大石 正道：内線57466 / (第3部)高橋 巧也：内線56277
(第4部)木村 久雄：内線56821 / (第5部)大矢 俊治：内線56403 / (試作工場)谷田貝悦男：内線58710
(共通)近藤 大介：内線57986 / (教養学部)木村 嘉陽：内線48903 / (教養学部)吉田 薫：内線46060

実行委員長 高野 早苗 tel 03-5452-6344 tabo@iis.u-tokyo.ac.jp

PRESS RELEASE

生研関連新聞記事

以下の各紙に掲載された生産技術研究所の研究成果に関する記事について紹介しています。

詳細は、総務・広報チームにお問い合わせください。

・読売、朝日、毎日、日経、産経、日刊工業、日経産業

なお、その他の新聞に掲載されたものを本欄に記載することを希望される場合は、総務・広報チームへご相談ください。

最 新 記 事		
・密集地に木造高層住宅 耐火・耐震性大幅アップ	[3/26 読売新聞 11面]	【腰原幹雄研究室】
●東京大学生産技術研究所と東京都市大学協定 環境分野など学術交流	[3/24 日経産業新聞(日経テレコン21) 9面、3/29 日刊工業新聞 24面]	

掲載項目について『●』で始まる項目は記者会見、『・』で始まる項目は研究に関する掲載記事です。

貴方のつぶやきに、返事が来るかも!?

～原稿を募集しています!～

生研ニュースでは、読者の皆様のためのコーナーをいつでも用意しております。

今年度から新たに、“つぶやき”のコーナーを設けました。生研生活を通じて気づいたちょっとしたこと、素敵だと思ったこと、「これは!」と思ったこと、などなど、気軽にお近くの生研ニュース部会員までお届け下さい。

他にも、生研ニュース部会員が気がついていない様々な情報や記事内容・企画などがありましたら、一言お声をおかけ下さい。

受け付けは常時行っています。思い立ったが吉日、奮っ

てご寄稿下さい。

なお、記事の採択については、生研ニュース部会にご一任願います。特定の個人や集団の利害に著しく関わるものについては、掲載できない場合もありますので、予めご了承下さい。その他、投稿についてご不明の点がありましたら、いつでもお問い合わせ下さい。

今年もいろいろな情報発信、記憶・記録の源としての役割を担っていこうと、部会員一同気合いが入っています!

(生研ニュース部会長 小倉 賢)

生研ツイート つぶやき

「男子便所はスケスケだねえ。。。 (物質・環境系部門 放浪の技術職員)」

「ぼおっとして歩いていたら、BC棟入口のドアが目の前に急に迫って来た。あそこは自動ドアにはならないのかな。(実はサッカー好きのニュース部会長)」

WATCH

地球観測衛星データ受信用アンテナ



• PROMENADE •

By a sunny Sunday afternoon, I open my window. A light and warm breeze entered my bed room. I could hear the far mutterings of the city daily life. It just looked like a perfect weather for having a small walk.

As I walked, the early spring sun was nicely warming my face. The branches of the trees filled with buds projected on the road a dark and fresh shadow. Between the cold of the winter and the heat of the summer, spring is surely a good season to roam in Tokyo. It is the time to look for quiet places where we would seldom think to go. I thus headed for the quiet residential areas around my apartment. There were more suited to my actual mood.

After a few steps, I happened to notice a small stall I had never seen before. The interior could hardly be seen because it was hidden in the darkness. Just a sign on the outside indicated that patisserie were to be found in it. The curiosity drove me in. Inside, Dangos, Daifukus and other beans based cakes were perfectly aligned on the display shelves. But nobody was to be seen. Japan is probably the only country in the world where a shopkeeper would leave its shop unclosed. I called with a "Sumimasen!". A few minutes later came a smiling seventy years old Obasan. We exchanged a few words about the coming "Sakuras" the nice weather and I bought a "Manjiyu" decorated with a marine plum flower.

I continued my walk accompanied by the singing

voices of the birds. Here and there small glimpses of a weekend could be caught. Children were playing in a square while their mothers were chatting. A little bit further, the light and high pitched notes of someone practicing shiamisen reached the street through an opened window.

Around a street corner, two tall houses were hiding a small temple. The two fox's guarding the entrance clearly showed its belonging to the Shinto religion. However, traces of the Buddhist could be found. A small smiling Buddha and flowers, which were put in a mug written 'I am on holiday', were hidden behind a tree. The Japanese quest for harmony goes as far as to handle every religion carefully.

The places of worship are usually filled with a particular atmosphere. But that day, this impression was reinforced by the ever changing shadow-patterns induced by the slow oscillations of the branches of the surrounding trees.

The dawning sun invited me to slowly going back home. The nights were still fresh and as soon as the sun disappeared, the freshness raised. But not feeling like coming back that soon and in order to prolonger this day, I went in the direction of the train station and stopped in Ramen-ya on my way home.

(物質・環境系部門 火原研究室

東京大学特別研究員 Pigot Christian(フランス))



On the way of my promenade

持続可能な資源供給を考える

サステイナブル材料国際研究センター 准教授 安達 毅

資源は十分な量があるのか？不足するようになるのか？この問いは、数千年にわたって我々が心配し続けてきた問いであって、現在でも大きな関心事になっている。不幸なことに、太平洋戦争や中東での紛争などの多くの例が示すように、資源をめぐる争いが引き起こされてきた歴史がある。それでもこれまでは幸運だったかもしれないと考える時代が比較的早く来るかも知れない。これまでは、人類の工夫と創造による技術の進歩によって、幸運にも世界各地で新しく巨大な鉱床が発見され、それを利用する製造工程にも大きな進歩があり、大量消費社会を全面的に支えてきた。しかし、地球の容量を考えるとそろそろ限界に近づいてきたのではないかと思わせる前兆が見られるようになってきたのである。

その一つはここ5年ほど続いている資源価格の高騰である。ガソリン価格が高騰したのは生活上実感しやすいインパクトであったが、石油と同じように、鉄や銅、亜鉛、レアメタルといった金属の価格も歴史上最高値を記録し、かつては考えられない高価格が維持されているのが、ここ最近の出来事である。その理由としては、中国をはじめとした発展途上国の経済発展からそれらの国々で資源需要が急速に伸びてきたことと、金融のグローバル化が進展したことから、資源が有望な投機対象となったことが主な理由としてあげられることが多い。しかし、先進国を含めた世界全体の需要で見ると急激に増加したわけではなく、1960年代から比較的一定の率で伸びてきており、最近の価格の傾向とは異なる。そうすると、価格が安定して投機的な魅力が減れば、資源は再び安価になるのだろうか。

資源の生産現場である鉱山からの視点から眺めるといくつもの暗い兆候が現れるようになってきたのがここ10年の傾向である。銅や石油で顕著だが、一つは現在の需要を支える大規模な鉱床・油田は、1960年代から70年代に発見されたものが多く、それらを食いつぶす形で現在採掘が行

われている。それが近年では、探査への投資額が増えても、かつてほどの超大規模と呼べる鉱床はほとんど見つからなくなってきたこと、比較的大型の鉱床を数多く追加することで需要の増加を補ってきている。

さらに、新しい鉱床の特徴として難題になってきているのが、鉱床の位置と、鉱石の質である。優良な鉱床とは、実際の開発を考えると掘りやすく運びやすいことが重要であり、港などのインフラから近く、地表面近くに存在することが求められる。しかし、新しい鉱山は、より僻地に、もしくはより地下深くに存在するものばかりになってきた。加えて、鉱石に含まれる金属の含有量の低下（品位の低下）が激しく、銅鉱石であればヒ素などの必要とされない重金属の含有量が顕著に増加してきている。これら鉱石の質の低下も鉱山関係者を悩ませている。

このような兆候から、安価で質の良い資源は確実に枯渇に向かっていると言えよう。需要の増加や価格の変化が落ち着けば、以前のように資源の価格は安くなるという時代は過ぎつつあるのかもしれない。世界の工業化にともなう資源需要を支えるには、リサイクルや省資源化の助けを得つつ、持続可能な資源供給を考える新しい局面に入ってきたことを念頭においた、総合的な資源問題の研究が求められてきている。



標高4,500mに位置するチリの銅鉱山

■編集後記■

ワールドカップの季節がやってきました。4年に1度しかみられない真剣勝負にはいつもワクワクして、寝る間も惜しみます。

サッカーに限らず、国旗が翻るといつい、自分の中には存在していないと思っていたナショナリズムが頭をもたげます。日本代表がベスト4に入れるかどうかはともかく、こういってナショナリズムが高揚している限りは世の中（いや、私

だけ？）平和ですね。

ただ、最近巷で流行の資源ナショナリズムについては、貧資源国の我が国は頭の痛いところ。そこへきて、まぐる問題。妙に資源ナショナリズムが高揚しましたが。。。こんなときこそ人種多様性を認め合い、国境の垣根をとっばらってthink globallyと行きたいところですが、身勝手でしょうか。頑張れニッポン！

（小倉 賢）

■広報委員会 生研ニュース部会
〒153-8505 東京都目黒区駒場4-6-1
東京大学生産技術研究所

☎(03)5452-6017 内線56017、56018

■編集スタッフ

小倉 賢・清田 隆・金 範

高宮 真・太田 浩史・三井 伸子

E-mail: iisnews@iis.u-tokyo.ac.jp

生研ホームページ

http://www.iis.u-tokyo.ac.jp/